

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2001年10月19日

出願番号
Application Number: 特願2001-321485

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

country code and number
of our priority application,
used for filing abroad
under the Paris Convention, is

J P 2 0 0 1 - 3 2 1 4 8 5

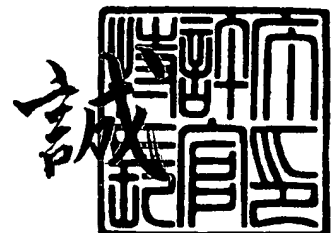
願人
Applicant(s): ユニ・チャーム株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2006年 5月29日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

中嶋



【書類名】 特許願

【整理番号】 YC1-039

【提出日】 平成13年10月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61F 13/15

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 水谷 聡

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 八巻 孝一

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 野田 祐樹

【特許出願人】

【識別番号】 000115108

【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社

【代理人】

【識別番号】 100106002

【弁理士】

【氏名又は名称】 正林 真之

【選任した代理人】

【識別番号】 100115303

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩永 和久

【選任した代理人】**【識別番号】** 100116872**【弁理士】****【氏名又は名称】** 藤田 和子**【手数料の表示】****【予納台帳番号】** 058975**【納付金額】** 21,000円**【先の出願に基づく優先権主張】****【出願番号】** 特願2001-152403**【出願日】** 平成13年 5月22日**【提出物件の目録】****【物件名】** 明細書 1**【物件名】** 要約書 1**【物件名】** 図面 1**【物件名】** 委任状 1**【援用の表示】** 平成13年9月4日付けの特願2001-238511
の手續補正書に添付のものを援用する。**【プルーフの要否】** 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 陰唇間パッド

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 体液の吸収が可能な吸収体を内包し、陰唇間に無理なく挟み込むことが可能な大きさになる陰唇間パッドであって、長軸方向と短軸方向とを備える形状をなしており、

前記陰唇間パッドには、着用者の指先の部分が無理なく挿入される大きさの一对の指先挿入口が設けられており、

当該一对の指先挿入口は、前記長軸方向を中心軸とした場合の前記陰唇間パッドの両側の対岸において互いに線対称な位置に設けられているものであり、使用の際には着用者の 2 本の指のそれぞれの指先が前記一对の指先挿入口にそれぞれ挿入されてから、前記線対称の対称軸のところで折られた状態で使用に供されることを特徴とする陰唇間パッド。

【請求項 2】 前記指先挿入口の幅寸法は、20 mm 以上であることを特徴とする請求項 1 記載の陰唇間パッド。

【請求項 3】 前記指先挿入口の深さ寸法は、15 mm 以上であることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の陰唇間パッド。

【請求項 4】 前記陰唇間パッドの反身体側には、シート体に取り付けられており、

前記シート体の取り付けは、前記陰唇間パッドの前記長軸方向に対する左右側縁部において一对の非接合部を有するようになされており、

前記一对の指先挿入口は、前記一对の非接合部により形成されていることを特徴とする請求項 1 から 3 いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項 5】 前記シート体は、陰唇間パッドの短手方向の長さ寸法に対して、少なくとも 80 % 以上の寸法を有することを特徴とする請求項 4 記載の陰唇間パッド。

【請求項 6】 前記シート体は、陰唇間パッドの反身体側面とは異なる色調、色度、模様を有することを特徴とする請求項 4 又は 5 記載の陰唇間パッド。

【請求項 7】 前記陰唇間パッド又は前記陰唇間パッドに内包されている前

記吸収体には、前記対称軸に沿って、折り曲げ誘導要素が設けられていることを特徴とする請求項 1 から 6 いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項 8】 前記折り曲げ誘導要素は、破線、切れ目線、圧縮線のいずれかにより構成されているものであることを特徴とする請求項 7 記載の陰唇間パッド。

【請求項 9】 請求項 1 から 6 いずれか記載の陰唇間パッドにおいて、更に前記対称軸に沿って長凸状領域が設けられており、使用の際には着用者の 2 本の指のそれぞれの指先が前記一对の指先挿入口にそれぞれ挿入されてから、前記対称軸のところで折られ、前記長凸状領域が更に突出させられた状態で使用に供されることを特徴とする陰唇間パッド。

【請求項 10】 前記長凸状領域は、前記対称軸が屈曲されることにより形成されているものであることを特徴とする請求項 9 記載の陰唇間パッド。

【請求項 11】 前記陰唇間パッドは、生理用ナプキンと併用される生理用ナプキン併用のものであることを特徴とする請求項 1 から 10 いずれか記載の陰唇間パッド。

【請求項 12】 請求項 1 から 11 いずれか記載の陰唇間パッドと、この陰唇間パッドを内包する包装容器と、から成る包装体であって、

前記包装容器の開封部の近傍に、前記一对の指先挿入口が位置付けられるように陰唇間パッドが内包されていることを特徴とする包装体。

【請求項 13】 請求項 1 から 11 いずれか記載の陰唇間パッドと、この陰唇間パッドを内包する包装容器と、から成る包装体であって、

前記陰唇間パッドは、前記対称軸に沿って身体側に向かって山折り状となるように折り畳まれて、前記包装容器に内包されている請求項 12 記載の包装体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、女性の陰唇に密着して装着できる陰唇間パッドに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来より、経血等の体液を吸収するための女性用衛生用品としては、生理用ナプキン等のシート状の吸収性物品が一般的に用いられている。ここで、生理用ナプキンについては、膣口付近への密着性の乏しさゆえに生じる隙間からの経血のモレを防ぐべく、多大な努力が払われている。

【0003】

しかしながら、生理用ナプキンは、衣服に固定して用いるものであるため、元来膣口付近への密着性は乏しく、また、着用者の活動に伴って生理用ナプキンを固定した下着と内股とでズレを生じ、不要な隙間を生じることもある。

【0004】

このような状況下、生理用ナプキンより小型の衛生用品として、近年、陰唇間パッドなる衛生用品が注目されるようになってきている。

【0005】

この陰唇間パッドは、女性の陰唇間にその一部分を挟み込ませ、陰唇内面に当接させて装着するというものであり、生理用ナプキンに比して身体との密着性が高いために経血のモレが防止されると共に、経血が拡散して身体に広く接することを防ぐために衛生的かつ清潔なものである。また、生理用ナプキンよりも小型であるために、装着感に優れて快適であるという利点もある。

【0006】

しかしながら、陰唇間パッドは、生理用ナプキンと比較した場合には、目視困難な陰唇間に装着するものであるため、生理用ナプキンよりも装着が難しいという難点がある。しかも、適切な位置に装着されなかった場合には、生理用ナプキンよりサイズが小さいために、経血のモレによる被害が甚大となる。

【0007】

このような陰唇間パッドの装着困難性の改善を図ったものとしては、PCT国際公開第WO 99/56689号公報に、身体と接触する面とは反対側の面に突起部を設けた構造を有するものが開示されている。この構造によれば、着用者は当該突起部を指で摘まんで装着を行なうことができるので、当該突起部がない場合よりは装着が容易であると考えられる（図17参照）。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、突起部を摘まんだだけでは陰唇感パッドを陰部に十分に密着させるように押しあてることも難しく、しかも、上記従来の陰唇間パッドでは、身体に接する面は平面状となっているため、溝状の形態をなす陰裂に沿うようにして装着することは極めて困難なのである。

【0009】

このように、上記従来の陰唇間パッドでは陰部への十分な密着を可能とするまでには至っていない。更には、依然として装着の際に経血等が指先に付着するなどの事態も生じ得、それが陰唇間パッドを使用する際の抵抗感を形成する一因となっている。

【0010】

本発明は、以上のような課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、女性の陰唇内に密着した装着を衛生的に行うことが可能な構造の陰唇間パッドを提供することにある。

【0011】**【課題を解決するための手段】**

上記のような課題を解決するために、本発明においては、装着時に陰裂に沿いやすい形態となり、この形態を維持したまま装着できる構造を備えた陰唇間パッド、より具体的には、陰唇間パッドの両側部に一对の指先挿入口を設け、そこに指先を引っ掛けて陰唇間パッドを縦軸中心線に沿って山折り状に折り曲げ、この形態を維持したまま陰唇間への装着を行なうことができる陰唇間パッドとしたことを特徴とする。

【0012】

より具体的には、本発明は、以下のようなものを提供する。

【0013】

(1) 体液の吸収が可能な吸収体を内包し、陰唇間に無理なく挟み込むことが可能な大きさになる陰唇間パッドであって、長軸方向と短軸方向とを備える形状をなしており、前記陰唇間パッドには、着用者の指先の部分が無理なく挿入される大きさの一对の指先挿入口が設けられており、当該一对の指先挿入口は、前

記長軸方向を中心軸とした場合の前記陰唇間パッドの両側の対岸において互いに線対称な位置に設けられているものであり、使用の際には着用者の2本の指のそれぞれの指先が前記一对の指先挿入口にそれぞれ挿入されてから、前記線対称の対称軸のところで折られた状態で使用に供されることを特徴とする陰唇間パッド。

【0014】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、陰唇間パッドの両側部において、少なくとも指先を挿入できる、即ち、指を引っ掛けることができる一对の指先挿入口が設けられている。このため、着用者は、陰唇間パッドを装着する際に、かかる一对の指先挿入口に2本の指を引っ掛け、この2本の指を互いに引き寄せるようにすることにより、陰唇間パッド全体を短手方向の中央において長手方向に沿って折り曲げることができる。これにより、身体側に向かって陰唇間パッドが山折り状に隆起するため、縦長で溝状の陰裂に対して進入しやすい形態を事前に形成することができる。そして、指先の状態をそのまま維持することにより、陰唇間パッドを折り曲げることによって生じた隆起領域を保つことが可能となる。このため、従来の陰唇間パッドのように単に陰唇間に挟み込まれるだけではなく、折り曲げ形成された隆起領域が陰唇内の奥深くにある小陰唇内部の膣口付近にまで入り込むため、陰唇間パッドと陰唇との間に生じる隙間の発生を著しく低減させ、陰部に対する陰唇間パッドの密着性を高めて経血モレの発生を防止することができる。

【0015】

また、本発明によれば、陰唇間パッド装着時においては指先が指先挿入口に挿入されているため、指先が陰唇や陰唇に付着している経血と直接接触することなく、衛生的に装着操作を行なうことができるのである。

【0016】

なお、本発明において、指先挿入口は、少なくとも指先を挿入することができるものであればよいが、指先のみならず、指を深く挿入できるようにしてもよい（図5参照）。

【0017】

(2) 前記指先挿入口の幅寸法は、2 0 mm以上、好ましくは2 5 ~ 3 5 m mであることを特徴とする(1)記載の陰唇間パッド。

【0 0 1 8】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、指先挿入口の幅寸法が、扁平な形状である指先を着用者がスムーズに挿入することが可能な寸法となっている。このため、着用者は、自然に指の腹がシート面に接するように指先を挿入するように仕向けられることとなり、挿入した指先を回転する等の操作を必要とせずに陰唇間パッドを摘まむことができる。これにより、陰唇間パッドの装着をより一層迅速なものとする事ができる。

【0 0 1 9】

なお、本発明において指先挿入口の「幅寸法」とは、指先挿入口の開口部分の幅広寸法を示す(図2参照)。

【0 0 2 0】

(3) 前記指先挿入口の深さ寸法は、1 5 mm以上であることを特徴とする(1)又は(2)記載の陰唇間パッド。

【0 0 2 1】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、指先挿入口の深さ寸法が、指先挿入口に挿入した指先を互いに引き寄せて陰唇間パッドを折り曲げるにあたり、指先が指先挿入口から安易に抜けてしまわないようにするのに十分な深さとなっている。

【0 0 2 2】

指先挿入口は、対岸に位置する一対の指先挿入口が互いにつながり、トンネルを形成していても構わない(図4 (A)参照)。

【0 0 2 3】

なお、本発明において「深さ寸法」とは、指先挿入口の開口部分から陰唇間パッドの短手方向における中央部分に直線状に向かう寸法であり、指先を挿入することができる挿入可能寸法を示す(図4 (B)参照)。

【0 0 2 4】

(4) 前記陰唇間パッドの反身体側には、シート体に取り付けられており、前記シート体の取り付けは、前記陰唇間パッドの前記長軸方向に対する左右側縁

部において一对の非接合部を有するようになされており、前記一对の指先挿入口は、前記一对の非接合部により形成されていることを特徴とする（１）から（３）いずれか記載の陰唇間パッド。

【0025】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、その反身体側において、陰唇間パッドを構成する部材とは別のシート体に取り付けられている。そして、このシート体の取り付けは、陰唇間パッドの両側縁において非接合部を有するようになされており、この非接合部において指先挿入口が形成されている。このような構造から、着用者が指先挿入口から２本の指をそれぞれ挿入してシート体のみを摘まむようにするだけで、指で摘まれたシート体が中央付近に寄せられると同時に、陰唇間パッドにおけるシート体との接合域がこれに連動し、陰唇間パッドの反身体側面が互いに面するように折り曲げられる作用が生じる。そして、陰唇間パッドの身体側面においては、身体方向に向かって山折り状の隆起領域が形成されることとなる。

【0026】

シート体と陰唇間パッドとの接合は、指先挿入口を除いた陰唇間パッドの周縁のみで接合するほか、指先挿入口を除いたほぼ全域にわたり互いに接合するようにしてもよい。

【0027】

（５） 前記シート体は、陰唇間パッドの短手方向の長さ寸法に対して、少なくとも８０％以上、好ましくは８０％～１３０％の範囲、より好ましくは９０～１００％（陰唇間パッドの短手方向の寸法と同寸法）の範囲で設けられることを特徴とする（４）記載の陰唇間パッド。

【0028】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、反身体側に取り付けられたシート体の寸法が、着用者がこれを摘まむことに連動させて陰唇間パッドを折り曲げるのに十分な寸法となっている。このため、シート体を摘まむという作業だけで、確実に陰唇間パッドが山折り状に折り曲げられ、陰唇間パッドを陰裂に沿って嵌装させやすい形状とすることができる。

【0029】

ここで、陰唇間パッドの短手方向の長さ寸法よりもシート体の長さ寸法が短い場合において、包装容器開封時に陰唇間パッドの反身体側面が露出するように陰唇間パッドが包装されているときには、即座に指先挿入口を視認することができることとなる（図6（A）参照）。

【0030】

（6） 前記シート体は、陰唇間パッドの反身体側面とは異なる色調、色度、模様を有することを特徴とする（4）又は（5）記載の陰唇間パッド。

【0031】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、当該陰唇間パッドの反身体側に取り付けられたシート体が、着用者が陰唇間パッドの反身体側面と区別しやすいように、当該陰唇間パッドの反身体側面とは異なる色調等となっている。このため、着用者は、シート体の識別を容易に行なうことができ、シート体と陰唇間パッドとの間に形成されている指先挿入口の位置を迅速に把握できる。

【0032】

本発明においては、着色や模様は指先挿入口の位置を示すことができるように施されていればよいことから、指先挿入口を形成する「陰唇間パッドの反身体側に位置する裏面側のシート」及び「陰唇間パッドに取り付けるシート体」の双方に着色や模様を施す必要はなく、何れか一方に対して施せば足りる（図2参照）。また、同様の理由から、裏面側のシートやシート体の全面に着色や模様を施すことは必ずしも必要ではなく、指先挿入口近傍のみに施すようにしても構わない（図12参照）。

【0033】

色調等を異ならしめる方法としては、裏面側のシートやシート体の原材料樹脂に着色剤を混合して裏面側のシートやシート体自体を着色する方法、裏面側のシートやシート体に顔料を印刷する方法、ホットメルト接着剤に顔料を混合したものを裏面側のシートやシート体に転写する方法等が挙げられる。

【0034】

この場合において、色調は、青系、赤系、緑系、黄系等とするのが製造上好ま

しい。特に、シート体を着色する場合には、褐色、黄褐色等、肌に近い色調とするのがよい。このようにすることにより、着用時に陰唇間パッドの存在が目立たなくなり、着用者にとって心理的に好ましいものとなる。

【0035】

模様を施す方法としては、例えば、指先挿入用口近傍において、裏面側のシートやシート体に対し、丸や三角、ハウスマーク等を印刷したり、エンボス加工等で型押しする方法が挙げられる。

【0036】

(7) 前記陰唇間パッド又は前記陰唇間パッドに内包されている前記吸収体には、前記対称軸に沿って、折り曲げ誘導要素が設けられていることを特徴とする(1)から(6)いずれか記載の陰唇間パッド。

【0037】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、陰唇間パッドあるいはそれに内包される吸収体に対し、短手方向の中央域において、長手方向に延在して折り曲げ誘導要素が配されている。このため、着用者が指先挿入口に挿入した2本の指先を互いに軽く引き寄せるだけで、陰唇間パッドは折り曲げ誘導要素に沿って容易に折り曲げられる。また、着用者の折り曲げ動作にかかわらず、折り曲げ誘導要素に従って好適な隆起領域が形成されることとなる。

【0038】

なお、この「折り曲げ誘導要素」は、陰唇間パッドを折り曲げたときに、当該折り曲げられた状態の陰唇間パッドが着用者の陰裂にはまり込みやすいように、その折り曲げ位置を指示するものであればよく、一条の連続するものとしても、間欠にしたものであっても構わない。

【0039】

(8) 前記折り曲げ誘導要素は、破線、切れ目線、圧縮線のいずれかにより形成されているものであることを特徴とする(7)記載の陰唇間パッド。

【0040】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、折り曲げ誘導要素が、破線部のみ、あるいは、破線部と非破線部を交互に配置することにより形成される切れ目線、ある

いは、圧縮線、のいずれかによって形成されている。

【0041】

折り曲げ誘導要素を「切れ目線」で構成する方法としては、例えば、直線状の超硬刃を設けたロータリーカッターで吸収体を左右に分割することにより設ける方法が挙げられる。この場合において、破線部の長さを1～5mmの範囲とし、破線部と破線部との間にある非破線部を0.3～5mmの範囲とするのが好ましい。

【0042】

折り曲げ誘導要素を「圧縮線」で構成する方法としては、例えば、陰唇間パッド若しくは陰唇間パッドに内包される吸収体に、幅0.5～3mmの範囲でエンボス加工を施し、折り曲げ位置となる部分を圧力によって周辺よりも押しつぶすことにより形成する方法が挙げられる。

【0043】

(9) (1) から (6) いずれか記載の陰唇間パッドにおいて、更に前記対称軸に沿って長凸状領域が設けられており、使用の際には着用者の2本の指のそれぞれの指先が前記一对の指先挿入口にそれぞれ挿入されてから、前記対称軸のところで折られ、前記長凸状領域が更に突出させられた状態で使用に供されることを特徴とする陰唇間パッド。

【0044】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、上述の(1)のように、使用に際して初めて隆起領域が形成されるのではなく、予め長凸状領域が形成されている。このため、着用者の取り扱い如何にかかわらず、陰唇間パッドが陰裂に沿いやすい形状となっている。

【0045】

特に、陰唇間パッドに長凸状領域が別途設けられている場合には、陰唇間パッドに対する突出量が多くなるため、陰唇内の奥に位置する膣口付近にまで陰唇間パッドが確実に介在することとなり、経血のモレ防止効果が一層高められる。

【0046】

(10) 前記長凸状領域は、前記対称軸が屈曲されることにより形成されて

いるものであることを特徴とする（９）記載の陰唇間パッド。

【0047】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、長凸状領域は陰唇間パッドを折り曲げることにより形成されている。このため、指先挿入口に挿入した指先で陰唇間パッドやシート体を摘まんだ際に、陰唇間パッドが山折り状に変形することを確実に誘導する。この結果、着用者の取扱いにかかわらず、陰唇間パッドが陰裂に沿いやすい形態となる。

【0048】

そして、陰唇間パッドにシート体に取り付けられている場合には、かかるシート体は、指先挿入口を形成するほかに、陰唇間パッドが折り曲げられて形成された長凸状領域が広がってしまうのを規制するという効果も有することになる。

【0049】

（１１） 前記陰唇間パッドは、生理用ナプキンと併用される生理用ナプキン併用のものであることを特徴とする（１）から（１０）いずれか記載の陰唇間パッド。

【0050】

本発明に係る陰唇間パッドによれば、生理用ナプキンと併用して使用することができる。このため、陰唇間パッドがその許容量を超える体液を受け止めた場合であっても、体液が漏れ出て下着を汚してしまう事態を確実に防止することが可能となる。

【0051】

また、膣口近傍のみにおいて両者が重ねられることとなるため、生理用ナプキンのみを重ねて使用する場合のように、ゴワゴワ感を生じる等により装着感を損ねてしまったり、衣服の外部から生理用ナプキンの存在を察知されやすくなってしまうたり、更には、膣口近傍以外の不要な部分にまで生理用ナプキンが重ねられてしまうためにかぶれやムレの原因となってしまうたり、という事態を回避することができる。加えて、生理用ナプキンを交換することなく陰唇間パッドのみを交換することができるため、着用者は人目につき易い大きさの生理用ナプキンを持ち歩かずに済む、という効果も有することとなる。

【0052】

(12) (1) から (11) いずれか記載の陰唇間パッドと、この陰唇間パッドを内包する包装容器と、から成る包装体であって、前記包装容器の開封部の近傍に、前記一对の指先挿入口が位置付けられるように陰唇間パッドが内包されていることを特徴とする包装体。

【0053】

本発明に係る包装体によれば、陰唇間パッドは、指先挿入口が包装容器の開封部の近傍に位置付けられている。このため、着用者が包装容器を開封するとすぐに指先挿入口を視認することができ、迅速に指先をかかると指先挿入口に挿入し、陰唇間パッドを保持することができる。

【0054】

(13) (1) から (11) いずれか記載の陰唇間パッドと、この陰唇間パッドを内包する包装容器と、から成る包装体であって、前記陰唇間パッドは、前記対称軸に沿って身体側に向かって山折り状となるように折り畳まれて、前記包装容器に内包されている (12) 記載の包装体。

【0055】

本発明に係る包装体によれば、陰唇間パッドは、短手方向の中央において、長手方向に沿って、予め折り畳まれて収納されている。このため、着用者は、片方の手で包装容器を摘みながら、他方の手で陰唇間パッドを取り出すことができ、陰唇間パッドが包装体からこぼれ落ちるようなトラブルを未然に防止することができる。しかも、山折り状に折り曲げるという操作が包装容器に内包されている段階でなされていることになるため、折り曲げ部分が折り癖となって、山折り状態を保持しやすくなっている。このため、装着操作がより一層容易なものとなっているのである。

【0056】**【発明の実施の形態】**

次に、本発明の陰唇間パッドについて、図を参照しつつ説明する。

【0057】

[シート体付き陰唇間パッドの構造]

図1はシート体付き陰唇間パッド10の身体側を示す図であり、図2はシート体付き陰唇間パッド10の反身体側を示す図であり、図3は図2のA-A視断面図であり、図4は図2のB-B視断面図であり、図5は指先挿入口3及び4に2本の指を挿入した状態を示す図である。

【0058】

図1に示すように、陰唇間パッド1は、左右両側縁部と前後両端部を有し、実質的に縦長の形態を成している。陰唇間パッド1の輪郭の形状は、陰唇間に挟むことができる形状であればよく、本実施形態のように長楕円形とするほか、長方形、砂時計型等、さまざまな形状とすることができる。

【0059】

図2に示すように、陰唇間パッド1の反身体側には、シート体2が取り付けられている。このシート体2は、図3に示すように、陰唇間パッド1の縦方向の両端部1a及び1bとその近傍に対しては接合されており、図4(A)に示すように、横方向の左右両側縁部の中央域1c及び1dに対しては非接合状態となっている。そして、図2から明らかなように、非接合状態となっている領域において、指先挿入口3及び4が形成されている。

【0060】

この指先挿入口3及び4は、着用者の指がスムーズに挿入されることができるのに十分な寸法となっており、具体的には、指先挿入口3の幅寸法（一方端部3aから他方端部3bまでの長さ寸法）及び指先挿入口4の幅寸法（一方端部4aから他方端部4bまでの長さ寸法）が、それぞれ25～35mmに設定されている。

【0061】

また、この実施形態では指先挿入口3及び4は互いにつながり、トンネルを形成しているが、図4(B)に示すように、陰唇間パッド1とシート体2とが短手方向の中央において縦軸に沿って接着されており、指先挿入口3と指先挿入口4とが個別の空間となっても構わない。この場合において、指先挿入口3の深さ寸法（開口部3cから終焉部3dまでの長さ寸法）及び指先挿入口4の深さ寸法（開口部4cから終焉部4dまでの長さ寸法）は、それぞれ15mm以上であ

ることが好ましい。

【0062】

なお、シート体2と陰唇間パッド1の反身体側面との接合は、超音波シール、ヒートシール等の公知の接合方法により行うことができる。

【0063】

本実施形態においては、図2に示すとおり、シート体2の縦方向の寸法は陰唇間パッド1と同等であるが、横幅の寸法はシート体2の方が陰唇間パッド1よりも若干短くなっている。このため、シート体付き陰唇間パッド10を反身体側から見た場合に、陰唇間パッド1の反身体側面が一部露出されることとなり、着用者はシート体付き陰唇間パッド10をひっくり返したりすることなく、指先挿入口3及び4を確認することができる。また、これに加え、陰唇間パッド1の反身体側面はシート体2とは異なる色に着色されていることから、着用者が指先挿入口3及び4を、より容易に視認することができるようになっている。

【0064】

そして、着用者は、図5に示すように、指先挿入口3から親指を入れ、指先挿入口4から人差し指を入れ、この2本の指でシート体2を摘まむようにする。ここで、陰唇間パッド1とシート体2とは指先挿入口3及び4を除いた周縁部において接着されていることから、シート体2を摘むだけで、これに連動して陰唇間パッド1が山折り状に折り曲げられる。

【0065】

図3及び図4（A）（B）に示すように、陰唇間パッド1の構成は、透水性の表面側シート11と不透水性の裏面側シート12との間に吸収体13を挟入し、この吸収体13の周辺部において表面側シート11と裏面側シート12とを互いに接合して成る貼り合わせタイプとなっている。この場合において、表面側シート11と裏面側シート12とを貼り付ける際に、シート体2をも同時に接合されている。この接合は、ヒートシール単独による接合のほか、ホットメルト型接着剤と併用した接合としても構わない。

【0066】

また、陰唇間パッド1の構成は、上述の貼り合わせタイプに限定されるもので

はなく、吸収体の下に不透水性材料を配置し、透水性のシートで全体を被覆した封入タイプとすることもできる。

【0067】

[使用方法]

次に、シート体付き陰唇間パッド10の使用方法について説明する。図6は包装用シート8で形成された包装容器からシート体付き陰唇間パッド10を取り出すまでの手順を示す工程図であり、図7は図6（D）に示すシート体付き陰唇間パッド10を身体側から見た図であり、図8はシート体付き陰唇間パッド10を陰唇内に装着する状態を示す図である。

【0068】

図6（A）に示すとおり、まず、包装用シート8から成る包装容器を開封し、シート体付き陰唇間パッド10を露出させる。この場合において、シート体付き陰唇間パッド10は、身体側面が包装用シート8に接するようにして包装容器に内包されるようにする。このようにすることにより、包装容器を開封した着用者はシート体付き陰唇間パッド10を反身体側から見ることとなり、指先挿入口3及び4を即座に視認することができる。

【0069】

次に、同（B）に示すように、指先挿入口3に親指の指先を入れ、指先挿入口4に人差し指の指先を入れる。そして、同（C）に示すように、この2本の指でシート体2を摘まむようにしてシート体付き陰唇間パッド10を持ち上げ、更に、同（D）に示すように指先に保持する。

【0070】

シート体付き陰唇間パッド10は、図7に示すように、シート体2を摘まむことにより、これに連動して陰唇間パッド1も縦方向に折り曲げられるため、中央部分が身体側に盛り上がり、隆起領域5を形成する。そして、図8に示すように、着用者はシート体2を摘まんだ状態を維持するだけで、陰唇9に装着するときまで陰唇間パッド1の折り曲げ状態を維持することができ、隆起領域5を陰唇内に入り込ませるようにして装着することが可能となる。

【0071】

〔他の形態の陰唇間パッド〕

次に、他の実施形態の陰唇間パッドについて説明する。図 9 は陰唇間パッド 21 の身体側面に長凸状領域 25 を有するシート体付き陰唇間パッド 20 の斜視図であり、図 10 は図 9 の C-C 視断面図である。また、図 11 は縦長ハート状のシート体付き陰唇間パッド 30 の身体側面を示す図であり、図 12 はシート体 2 に模様を付したシート体付き陰唇間パッド 10 を示す図である。

【0072】

図 9 に示すように、陰唇間パッド 21 は短手方向の略中央を頂部として身体側向かって折り曲げられ、この折り曲げられた部分において長凸状領域 25 を形成している。そして、長凸状領域 25 の左右に接続する延長領域において、シート体 22 が取り付けられている。このシート体 22 は、陰唇間パッドの両端縁 21a、21b の近傍において接合されており、側縁 21c、21d において非接合領域を有している。そして、この非接合領域において、図 1 に示すように指先挿入口 23 及び 24 が形成されている。

【0073】

また、シート体 22 は長凸状領域 25 の広がり規制するように機能するため、着用者の折り曲げ操作の如何にかかわらず、好適な形状の長凸状領域 25 が装着時まで維持されることとなる。

【0074】

図 11 に示すように、陰唇間パッド 31 を縦長ハート状とし、これにシート体 32 を取り付けて、シート体付き陰唇間パッド 30 とすることもできる。陰唇間パッド 31 をこのような形状とした場合には、着用時に着用者の前方に位置する前方域 31A が幅狭となり、大腿部内側と陰唇間パッド 31 とが接触する面積が少なくなる。ここで、陰唇間パッドの前方域を幅広とすると、着用者の足が激しい動作をした場合には、大腿部内側と陰唇間パッド側部とがこすれて生じる摩擦力によって、陰唇から陰唇間パッドが外れてしまうおそれがある。この点、陰唇間パッド 31 は前方域 31A が幅狭となっているため、着用者が足を動かした場合でも、陰唇間パッド 31 が受ける摩擦力が少なく、陰唇間パッド 31 の装着位置がズレるという事態が生じにくくなっている。

【0075】

また、陰唇間パッド31は、後方域13Bが幅広となっているため、経血の排泄量が多い場合、特に、膣口から経血が突然噴出したような場合でも、広い表面積を有する後方域31Bで経血を受け止め、これを吸収することができる。

しかも、後方域31Bは、後端部中央において割れ目部31Cを備えているため、陰唇間パッド31の縦寸法が長いにもかかわらず、臀部にフィットしやすい形状となっている。この点、陰唇間パッドが後端部中央が凹んでいない形状である場合、例えば、後端部が前端部と同様にU状となっている場合には、陰唇間パッド31のように縦寸法を長くすると、着用時に尻の割れ間から後端部中央がはみ出てしまうこととなる。この結果、かかる後端部中央が下着などと接触して陰唇間パッドの装着位置にズレを生じさせたり、また、後端部中央が尻の割れ間に接することができずに隙間を生じさせて経血モレを生じさせたりするおそれがある。この点、当該実施形態においては、割れ目部31Cの存在により、後方域31Bの端部が着用者の尻の形状にフィットしやすいようになっているため、陰唇間パッド31と着用者の臀部との密着性を維持したまま、陰唇間パッド31の経血吸収能を高めることが可能となっているのである。

【0076】

図2に示すシート体付き陰唇間パッド10においては、裏面側シート12に着色を施すことにより、指先挿入用口3及び4を着用者が容易に判別することができるようになっているが、裏面側シート12はそのままに、シート体2に着色や模様を施すことにより、指先挿入口3及び4を着用者が容易に識別できるようにすることもできる。例えば、図12(A)に示すように、シート体2に矢印を印刷して指先挿入用口3及び4を指し示すようにしたり、同(B)に示すように、シート体2に三角形の模様を印刷して指先挿入用口3及び4を示すようにしたりすることもできる。

【0077】

[包装形態]

次に、本発明に係る陰唇間パッドの包装形態について説明する。図13は包装用シート48でシート体付き陰唇間パッド10を包装した包装体40を示す図で

あり、図14は図13のD-D視断面図であり、図15は包装容器41が開封された状態を示す断面図であり、図16は包装容器41を開封して陰唇間パッド10を取り出す手順を示す工程図である。

【0078】

図13に示すように、包装容器は、内包する陰唇間パッド（図示せず）と重ならないように包装用シート48同士を上下両縁で互いに接合することにより形成されている。この包装容器の開封部42は、横方向に開封できるように設けられており、上下両縁の接合は、陰唇間パッドを取り出すために開封できるように調整されている。このような調整方法としては、例えば、ヒートエンボスによる押圧、雌雄のエンボスによる絡合等の公知技術が挙げられる。

【0079】

図14に示すように、包装体40には、シート体付き陰唇間パッド10が、シート体2が内側になるようにして縦軸を中心として折り畳まれて内包されている。このため、包装用シート48に陰唇間パッド2の身体側が接するようになっている。

【0080】

そして、図15に示すように、包装容器41の開封方向はシート体付き陰唇間パッド10の折り畳み方向とは反対となっているため、両者が同じ向きになっている場合のように、包装容器41開封の際にシート体付き陰唇間パッド10の折り畳み部側が観察されてしまうということがない。このため、着用者は、取り出したシート体付き陰唇間パッド10の向きを変えろという操作を行なうことなく、開封と同時に指先挿入口3及び4を視認し、迅速にかかる指先挿入口3及び4に指先を挿入することができるのである。

【0081】

包装体40からシート体付き陰唇間パッド10を取り出すにあたっては、まず、図16（A）に示すように、包装容器41を止着テープ44を上面にする。そして、同（B）に示すように、利き手とは反対の手で包装体40を掴み、利き手の指で止着テープ44摘まんで引っ張ることにより、開封部42を開封する。これにより指先挿入口3及び4を露出させる。続いて、同（C）に示すように、指

先挿入口 3 に親指を、指先挿入口 4 に人差し指を挿入し、シート体付き陰唇間パッド 10 を取り出す。このようにすることにより、同 (D) に示すように、隆起領域 5 を形成した状態でシート体付き陰唇間パッドを保持することができる。

【0082】

[陰唇間パッドの外観寸法]

次に、陰唇間パッドの外観寸法について説明する。

【0083】

陰唇間パッドの縦寸法と横寸法は、陰唇内に嵌合でき、かつ、陰唇自体の力で保持できる範囲であって、陰唇の閉鎖性を考慮した上で設けられる。具体的には、縦寸法は 60～150 mm の範囲、好適には 80～120 mm の範囲であり、横寸法は 40～70 mm の範囲、好適には 35～50 mm の範囲で設けられる。

【0084】

陰唇間パッドに内包される吸収体の寸法は、陰唇間パッドと同等、又は、周縁部の強さを考慮して、外輪郭から間隔をあけて 2～10 mm 縮小した寸法で設けられる。また、吸収体の厚みは、着用感を阻害しない良好な快適感を得るため、2～10 mm の範囲、好適には 3～6 mm の範囲とするのがよい。

【0085】

[陰唇間パッドの構成材料]

<透水性シート>

陰唇間パッドの身体側に配置される透水性のシートには、液親水性であり、肌に刺激を与えない材料が使用される。このようなものとしては、メルトブローン、スパンボンド、ポイントボンド、スルーエアー、ニードルパンチ、湿式、湿式スパンレース、フォームフィルム等の製造方法から得られる不織布を単独又はこれらを複合した材料が挙げられる。

【0086】

繊維状シートとしては、レーヨン、アセテート、コットン、パルプ又は合成樹脂を成分としたものを単独又は芯鞘構造を成すように複合したものを単独又は混合した繊維をシート化したものが挙げられる。

【0087】

このような材料のうち、陰唇内面からの液移動性や活性剤による化学的刺激を考慮すると、天然コットン5～30%、レーヨン又はアセテートを70～95%の比率で混合した繊維を、20～50 g/m²の範囲で調整した後、水流交絡により繊維同士を絡合させて乾燥させ、厚みを0.3～1.0 mmの範囲で調整したспанレース不織布が好ましい。この際に使用する糸質は、天然コットンであれば15～60 mmの範囲、レーヨン又はアセテートであれば25～51 mmの範囲で、2.2～6.6 d t e xの範囲から選ばれる。

【0088】

<吸収体>

陰唇間パッドに内包される吸収体に用いられる材料としては、パルプ、化学パルプ、レーヨン、アセテート、天然コットン、高分子吸収体、繊維状高分子吸収体、合成繊維を単独又はこれらを混合した物が使用できる。

【0089】

シート状の材料としては、これらをシート状若しくは粉状に加工して使用してもよく、使用方法に限定されるものではない。

【0090】

吸収体は液体（体液）の吸収保持が可能であればよいが、嵩高であり、型崩れしにくく、化学的刺激が少ないものであることが好ましい。具体的には、1.1～4.4 d t e xの範囲から選ばれるレーヨン又はアセテートを60～90%、繊維状高分子吸収体10～40%の混合比で積層した繊維を、ニードリングにより絡ませ、シート化した目付50～250 g/m²、2～5 mmの嵩を有する不織布シートが挙げられる。

【0091】

上述のような吸収体を陰唇間パッドに組み込む際には、必要に応じて嵩を調整する、重ねる、折り重ねる等により、適宜調整することができる。

【0092】

<不透水性シート>

陰唇間パッドに使用される不透水性のシートの材料としては、吸収体に保持された経血が陰唇間パッドの外へ漏れ出すことを防止できるものを使用することが

できる。また、透湿性素材とすることにより、装着時のムレを低減させることができ、装着時における不快感を低減させることが可能となる。

【0093】

このような材料としては、例えば、合成樹脂を膜化したシート状フィルム、無機フィラーを充填させて延伸処理を施すことにより得られる通気フィルム、紙、不織布とフィルムを複合したラミネート物、10～30%の開孔を有し孔径が0.1～0.6mmの範囲で毛細管を吸収性体側に向かうように配置することにより得られる通気性液遮断シート、等を使用することができる。

【0094】

更に、装着感を損なわない柔軟性を考慮した場合には、例えば、密度が0.900～0.925g/cm³の密度の低密度ポリエチレン(LDPE)樹脂を主体とした目付15～30g/m²の範囲から得られるフィルムを使用することが好ましい。

【0095】

<シート体と陰唇間パッドの反身体側面との接合>

接合方法としては、感圧型ホットメルト、感熱型ホットメルト、ヒートシール、超音波シール等の方法により固定することができる。ホットメルト接着剤の塗布形態は、面状、線状、螺旋状、噴霧状等、任意に選択することが可能である。

【0096】

<シート体>

シート体を使用する材料は、指を挿入した際に破損しない程度の強度を有することを考慮した上で選択することが好ましく、シート状不織布、弾性伸縮性不織布、フィルム、フォームフィルム、エラスティックフィルム、発泡シート、薄葉紙等を単独で又はこれらをラミネート加工したものの中から選択することが可能である。好ましくは、横方向破断強度が少なくとも0.6N/25mmであり、こわさを考慮した場合には、0.6～2.5N/25mmの範囲から選ばれる。具体的には、密度0.915の低密度ポリエチレン(LDPE)樹脂を主成分とした厚さ15～30ミクロンに調整されたフィルムであり、特に好ましいものとしては、指先挿入口からの指の引き抜きが容易となるものであり、毛細管を有す

る密度 0.920 の LDPE 樹脂を主成分とし、嵩が 0.3～1.0 mm、開孔率が 15～60%、孔径が 0.3～1.5 mm を有するフォームフィルムが挙げられる。

【0097】

〔生分解性・水分散性・水溶性を付与した陰唇間パッドの構成〕

本発明の陰唇間パッドは、生分解性素材及び／又は水分散性素材及び／又は水溶性素材で構成されていることが好ましい。このような陰唇間パッドは、使用後そのままトイレに脱落させて流すことができるため、パッドの破棄を簡便かつ清潔に行なうことができ、トイレ内のゴミの低減を図ることもできるからである。

【0098】

本明細書において、「生分解性」とは、放線菌をはじめとする細菌、その他の微生物の存在下、自然界のプロセスに従って、嫌気性又は好気性条件下で物質が二酸化炭素又はメタン等のガス、水及びバイオマスに分解されることをいい、当該物質の生分解能（生分解速度、生分解度など）が、落ち葉等の自然に生じる材料、もしくは同一環境下で生分解性として一般に認識される合成ポリマーに匹敵することをいう。「水分散性」とは、水解性と同じ意味であって、使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水又は水流中では、繊維同士が、少なくとも一般のトイレ配管を詰まらせることがない程度の小断片に容易に分散される性質のことをいう。「水溶性」とは、使用時の限定された量の水分（経血）では影響はないものの、多量の水又は水流中においては溶解する性質のことをいう。

【0099】

<透水性シート>

透水性シートに使用できる材料としては、спанレース不織布のほか、繊維長を 1～15 mm の範囲から選択される湿式спанレース不織布を使用することができる。他の材料としては、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネートなどの加水分解による生分解性樹脂も使用することができる。例えば、ポリ乳酸を原料として作られる目付が 20～60 g/m² の範囲で調整されたメルトブローン不織布や目付が 15～30 g/m² の範囲、繊維太さが 1.1～3.3 d t e x の範囲で

調整されたспанボンド不織布が挙げられる。なお、各不織布材料には、開孔処理を施しても施さなくてもどちらでもよい。

【0100】

他の材料としてはアセテート、合成繊維を単独又は積層体の連続繊維であるトウを目付50～300 g/m²の範囲に調整し、繊維同士を解繊することにより使用することもできる。

【0101】

<吸収体>

吸収体に使用できる材料としては、ニードリングから得られる不織布シートを使用することができる。なお、高分子吸収材料の生分解性等を考慮すると、カルボキシメチルセルロース、又は、カルボキシエチルセルロース繊維を使用するのが好ましい。

【0102】

<不透水性シート>

不透水性のシートに使用できる材料としては、PVAフィルム、PVAフィルムの片面若しくは両面あるいは部分的にシリコンなどにより撥水処理を施したフィルムシート、シリコンを混合したPVAフィルム、澱粉フィルム、ポリ乳酸又はポリブチレンサクシネート等の加水分解による生分解性樹脂を原料としたフィルム及びティッシュ等とのラミネート紙を使用することができる。必要に応じて無機顔料を0.1～5%の範囲で混合して着色を施してもよい。

【0103】

過湿下における防漏性の維持と浄化層への過度な負荷を与えないこと等をも考慮した場合には、ポリ乳酸を原料としたフィルムを10～20ミクロンの厚み範囲で目付15～20 g/m²の範囲から選ばれるティッシュとラミネートし、更にラミネート時の貼り合せ面積率を5～40%の範囲で設けられたラミネート紙が好適である。

【0104】

<シート体>

シート体に生分解性や水洗可能性を持たせるためには、シート体を構成する合

成樹脂を、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、PVA（ポリビニルアルコール）樹脂等の生分解性又は水溶性樹脂にする。また、ティッシュと前記生分解性又は水溶性樹脂とのラミネート材料としてもよい。

【0105】

<接合方法>

接合方法としては、水溶性又は水膨潤性を有するポリビニルアルコール等による接着、ヒートシール、或いは水素結合による接合、等の接合方法を単独で若しくは適宜組み合わせ用いることができる。

【0106】

<包装容器の材料>

包装容器に使用される包装用シートには、公知の物を用いることができる。例えば、厚さ15～60ミクロンのポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル、ポリビニルアルコール、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、或いは不織布、紙、及びこれらのラミネート材料が挙げられる。

【0107】

より具体的には、ゴミや塵などが混入しにくい密閉性と包装形態の保持性を考慮したうえで、спанボンド・メルトブローン・спанボンドが $6 \sim 10 \text{ g/m}^2$ ・ $5 \sim 20 \text{ g/m}^2$ ・ $6 \sim 10 \text{ g/m}^2$ 重量で構成される複合不織布、又は密度 $0.9 \sim 0.925 \text{ g/cm}^3$ の範囲から選ばれるLDPEを主成分とした厚さが15～30ミクロンに調整されたフィルム等を使用できる。

【0108】

生分解性・水分散性・水溶性を有するようにする場合には、合成樹脂組成を生分解性或いは水溶性であるポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、ポリビニルアルコール等の組成を換えることにより可能である。

【0109】

また、開封の際に着用者は、片方の手で陰唇間製品が収納された包装体を掴んだ状態に仕向けられるため、陰唇間製品が包装体からこぼれ落ちるようなトラブルも未然に防止されることになる。

【0110】

＜包装容器の材料＞

包装容器に使用される包装用シートには、例えば、ティッシュ、不織布、フィルム等を単独又はこれらのラミネート物を使用することができ、特に限定されるものではない。

【0111】

具体的には、LDPEを主成分とした目付15～30 g/m²の範囲で調整されたフィルムが挙げられる。

【0112】

より具体的には、ゴミや塵などが混入しにくい密閉性と包装形態の保持性を考慮したうえで、スパンボンド・メルトブローン・スパンボンドが6～10 g/m²・5～20 g/m²・6～10 g/m²重量で構成される複合不織布、又は密度0.9～0.925 g/cm³の範囲から選ばれるLDPEを主成分とした厚さが15～30ミクロンに調整されたフィルム等を使用できる。

【0113】

生分解性・水分散性・水溶性を有するようにする場合には、生分解性であるポリ乳酸、ポリイソシアネート、澱粉等の不織布又はフィルムから得られ、水溶性であればポリビニルアルコールを主体としたフィルムから得られ、並びにトイレットペーパーを使用することも可能である。合成樹脂組成を生分解性或いは水溶性であるポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、ポリビニルアルコール等の組成を換えることにより可能である。

【0114】

具体的には、ポリイソシアネートを目付け5～10 g/m²の範囲で調整したフィルムと目付け15～30 g/m²の範囲で調整される水解性紙とのラミネート体が挙げられる。

【0115】

【発明の効果】

以上のような本発明によれば、陰唇間パッド側縁に設けられた指先挿入口に指先を挿入し、この指先を互いに引き寄せて陰唇間パッドを摘まむようにすることにより、陰唇間パッドの身体側面に陰裂に沿いやすい形状の隆起領域を形成する

ことができる。このため、この状態を維持したまま陰唇間パッドを陰唇に装着することにより、指先を清潔に保ったまま、陰唇内奥の膣口付近にまで陰唇間パッドを嵌装させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本実施形態のシート体付き陰唇間パッドの身体側を示す図である。

【図 2】 本実施形態のシート体付き陰唇間パッドの反身体側を示す図である。

【図 3】 図 2 の A-A 視断面を示す図である。

【図 4】 図 2 の B-B 視断面を示す図である。

【図 5】 本実施形態のシート体付き陰唇間パッドの指先挿入口に指を挿入した状態を示す図である。

【図 6】 包装容器からシート体付き陰唇間パッドを取り出すまでの手順を示す工程図である。

【図 7】 図 6 (D) に示すシート体付き陰唇間パッドを身体側から見た図である。

【図 8】 シート体付き陰唇間パッド 10 を陰唇内に装着する状態を示す図である。

【図 9】 陰唇間パッドの身体側面に長凸状領域を有するシート体付き陰唇間パッドの斜視図である。

【図 10】 図 9 の C-C 視断面図である。

【図 11】 縦長ハート状のシート体付き陰唇間パッドの身体側面を示す図である。

【図 12】 縦長ハート状のシート体付き陰唇間パッドの反身体側面を示す図である。

【図 13】 シート体に模様を施したシート体付き陰唇間パッドを示す図である。

【図 14】 図 13 の D-D 視断面図である。

【図 15】 包装用シートで形成された包装容器が開封された状態を示す斜視断面図である。

【図 16】 包装容器を開封してシート体付き陰唇間パッドを取り出す手順を示

す工程図である。

【図 1 7】 陰唇間パッドの反身体側面に突起部を有する従来例の使用状態を示す図である。

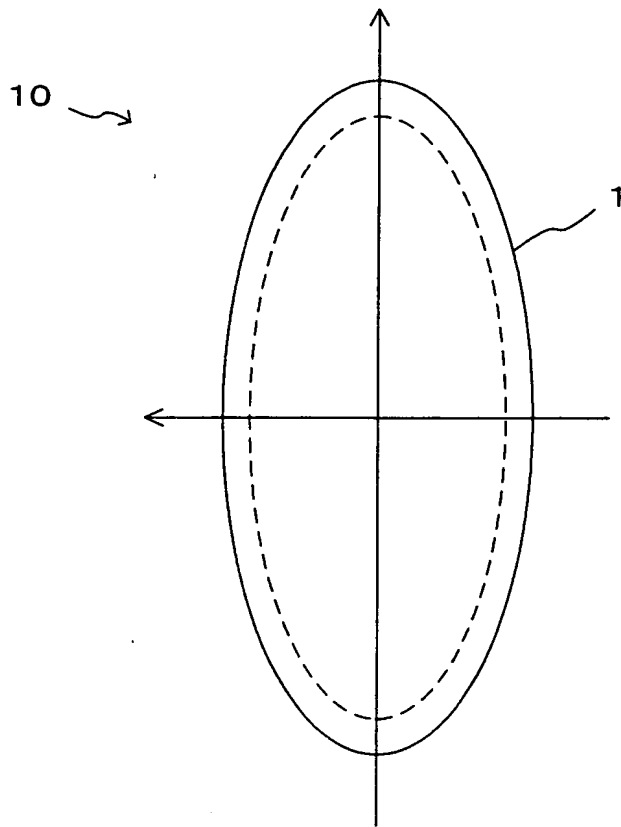
【符号の説明】

- 1、2 1、3 1 陰唇間パッド
- 2、2 2、3 2 シート体
- 3、4、2 3、2 4 指先挿入口
- 5 隆起領域
- 1 0、2 0、3 0 シート体付き陰唇間パッド
- 8、4 8 包装用シート
- 9 陰唇
- 1 1 表面側シート
- 1 2 裏面側シート
- 1 3 吸収体
- 2 5 長凸状領域
- 4 0 包装体
- 4 1 包装容器
- 4 4 止着テープ

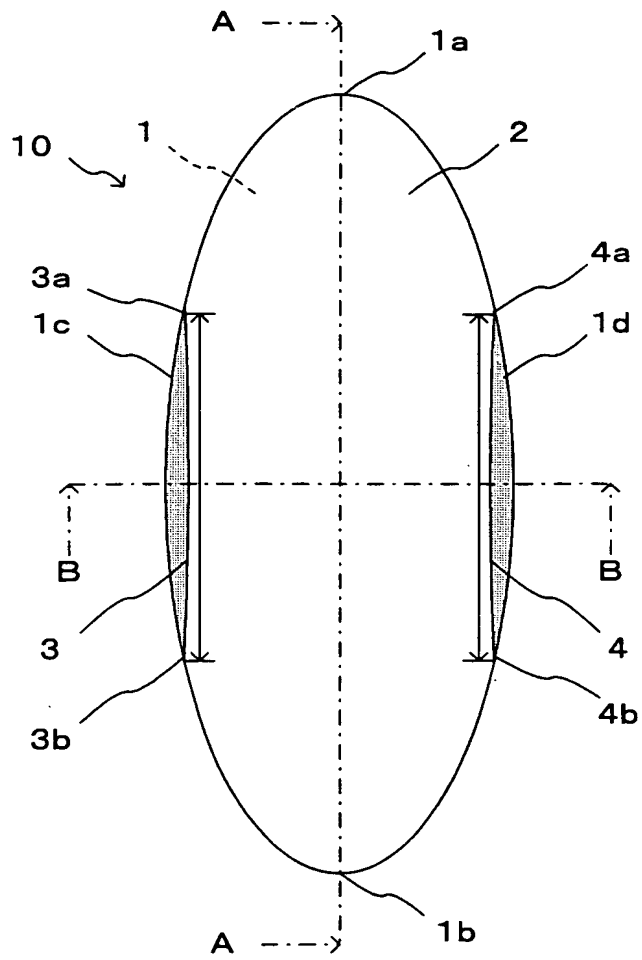
【書類名】

図面

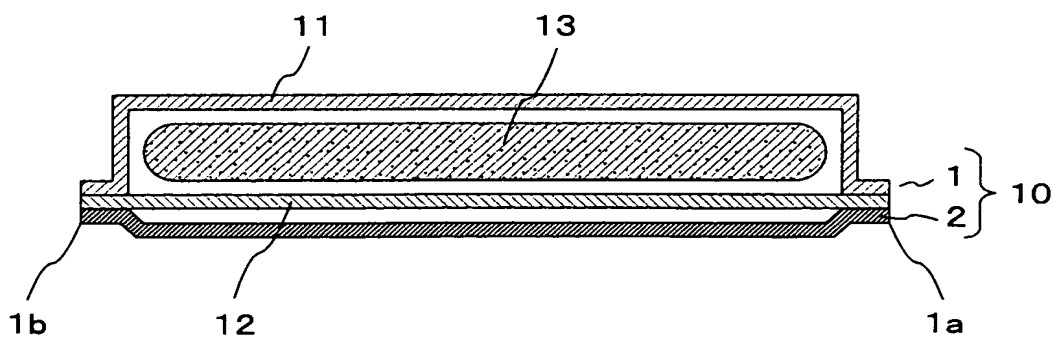
【図 1】



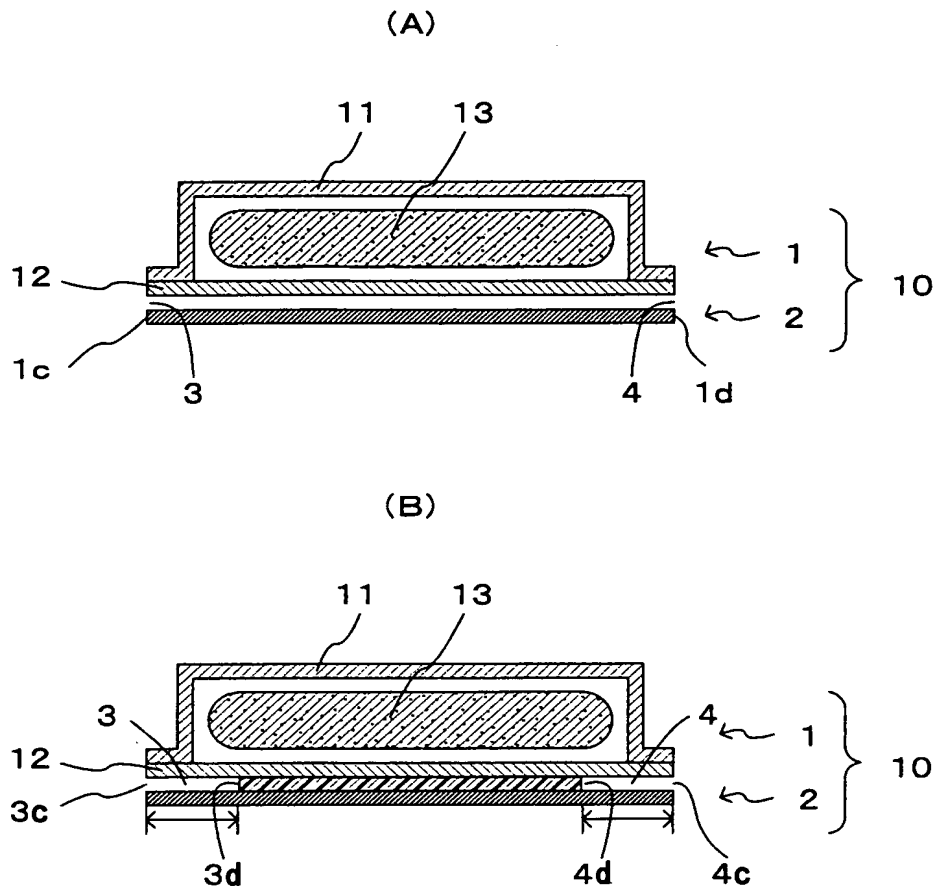
【図 2】



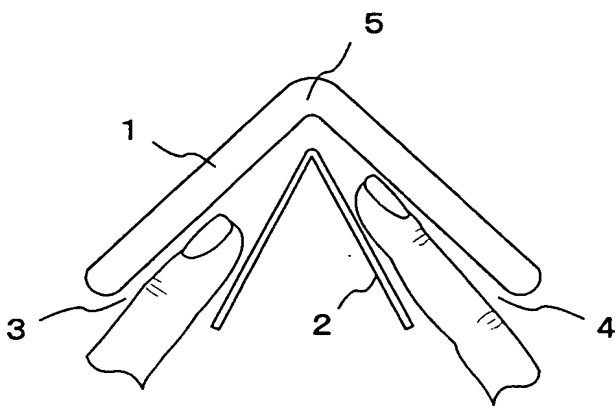
【図 3】



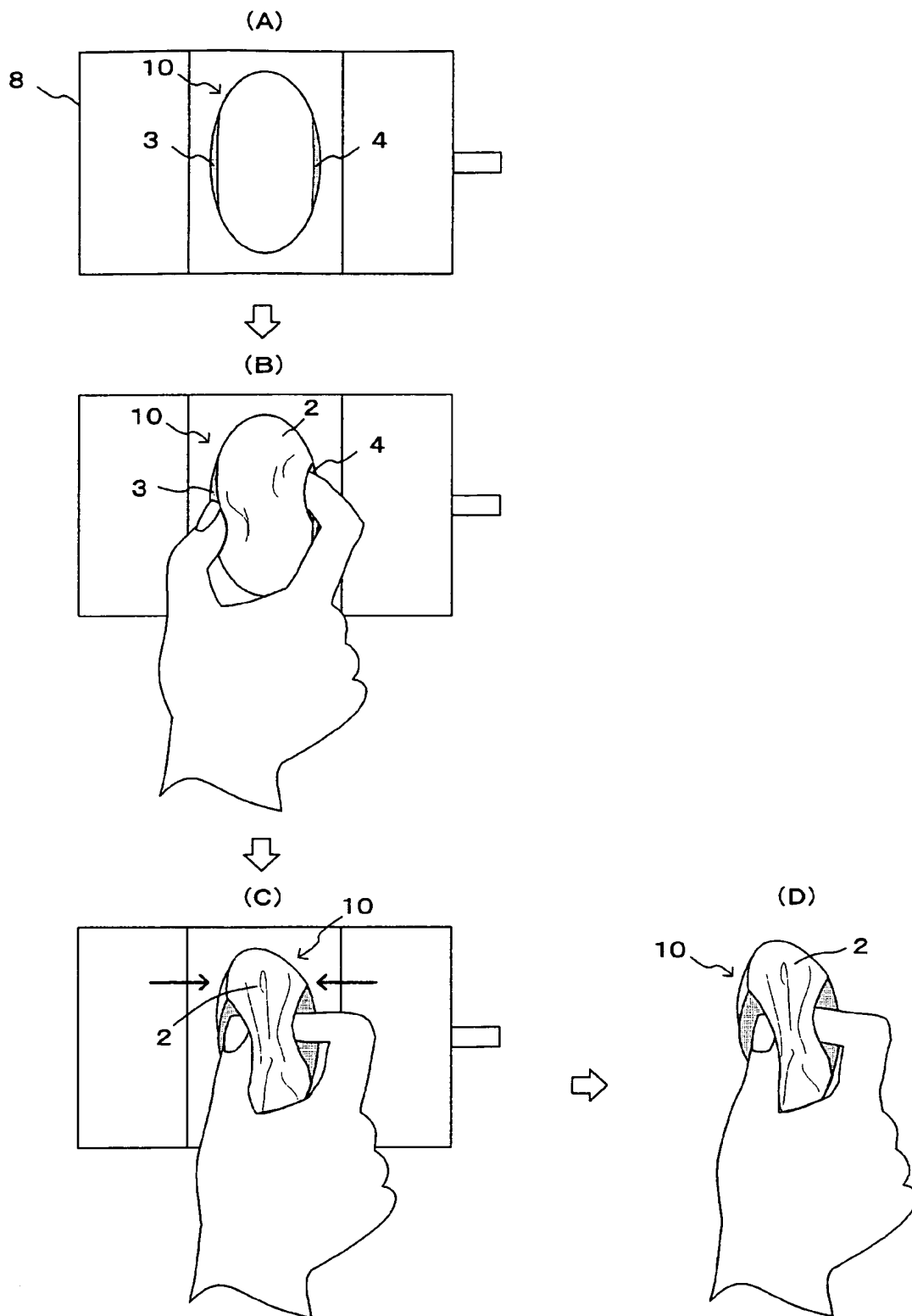
【図 4】



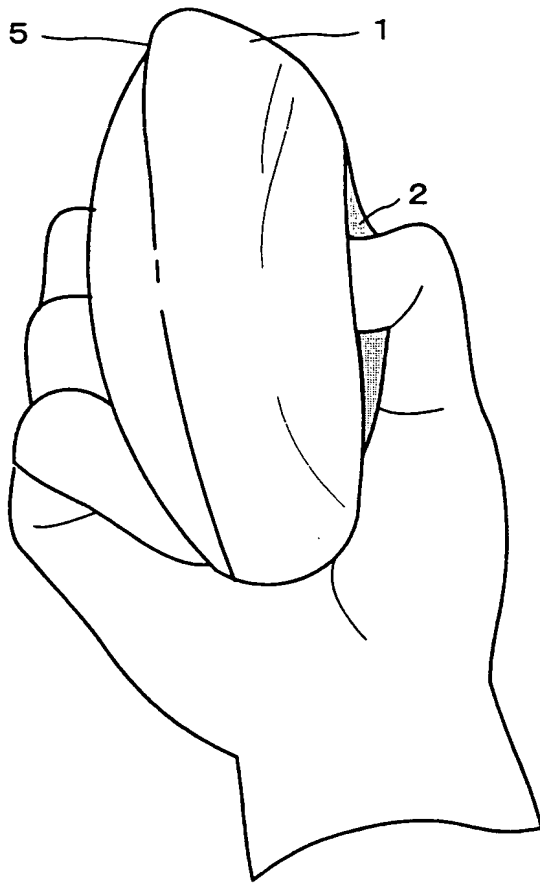
【図 5】



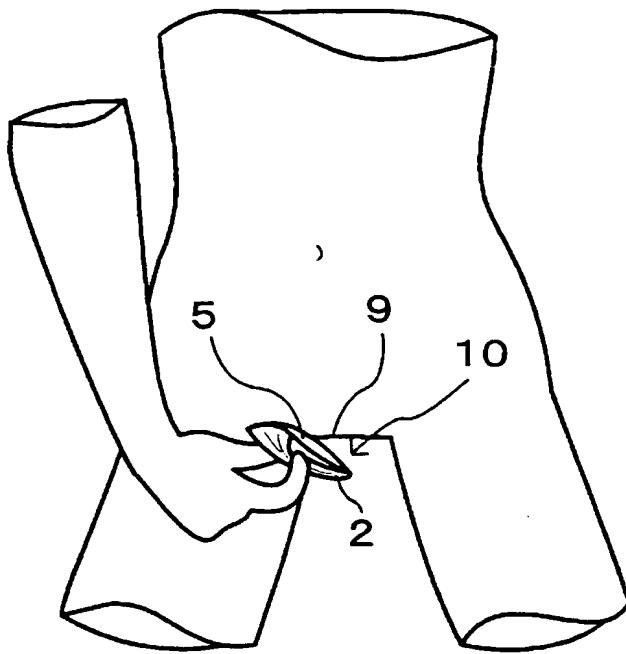
【図 6】



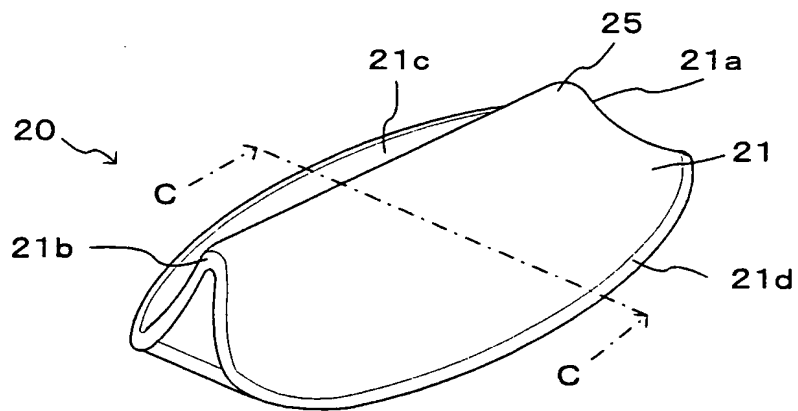
【図 7】



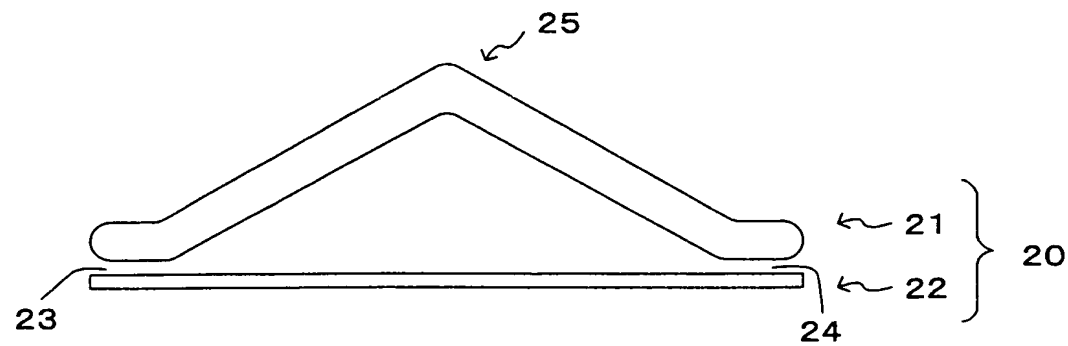
【図 8】



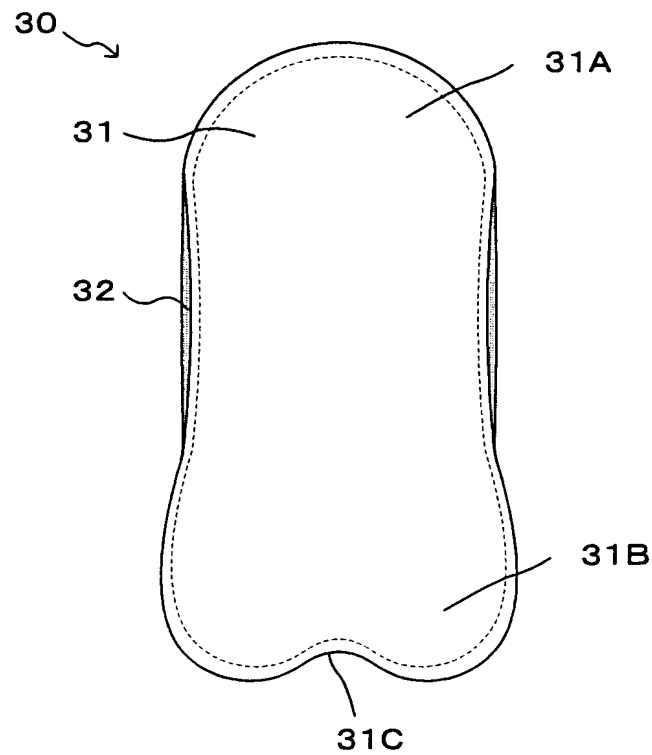
【図 9】



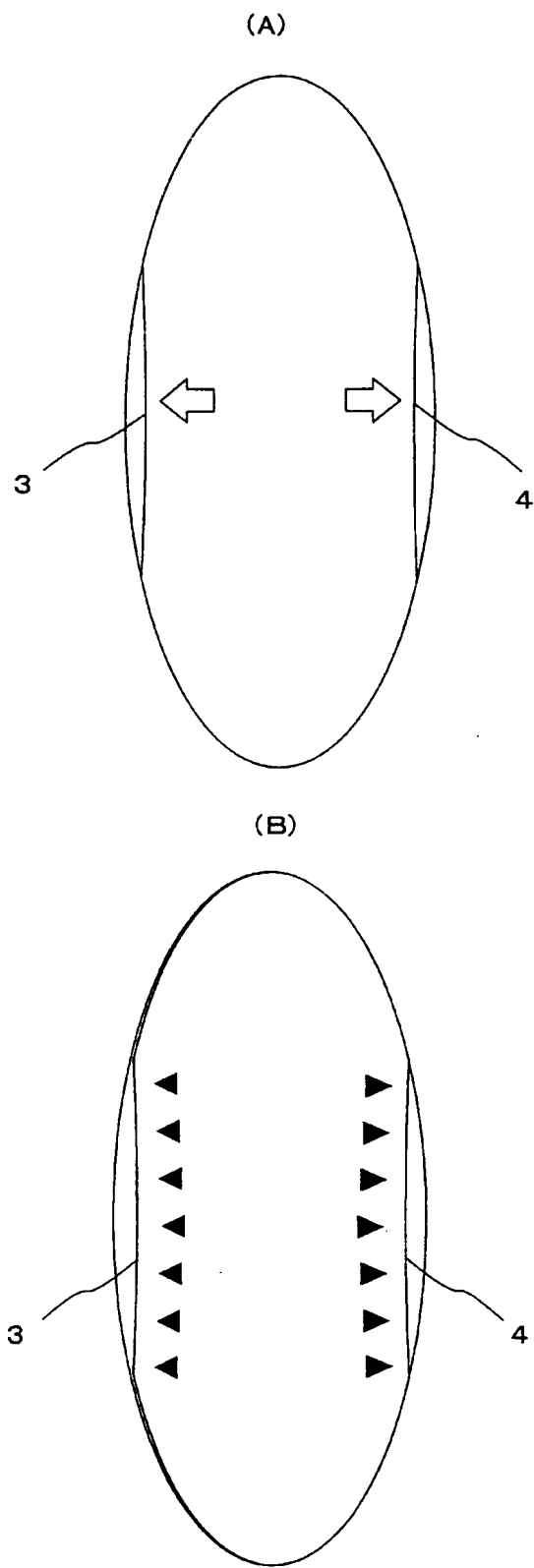
【図 10】



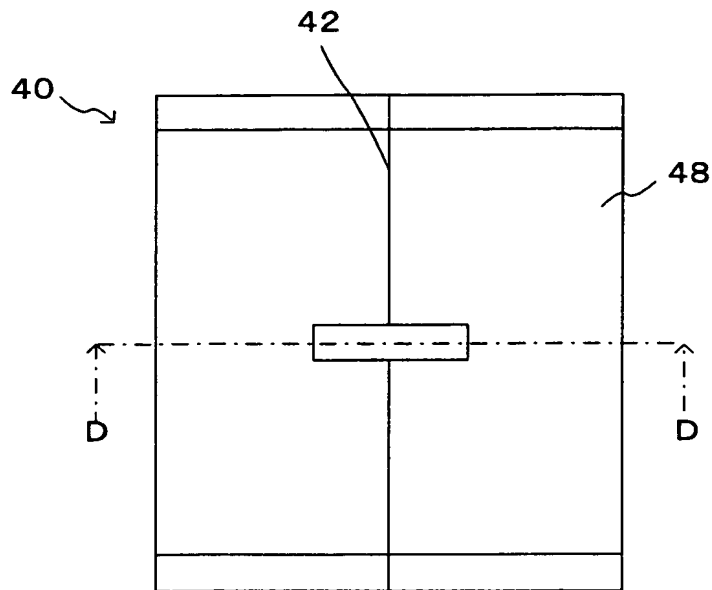
【図 11】



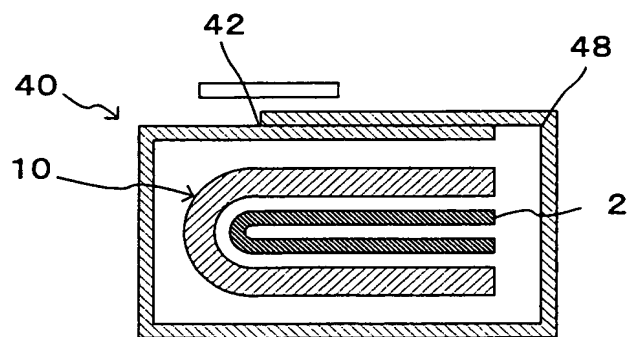
【図 12】



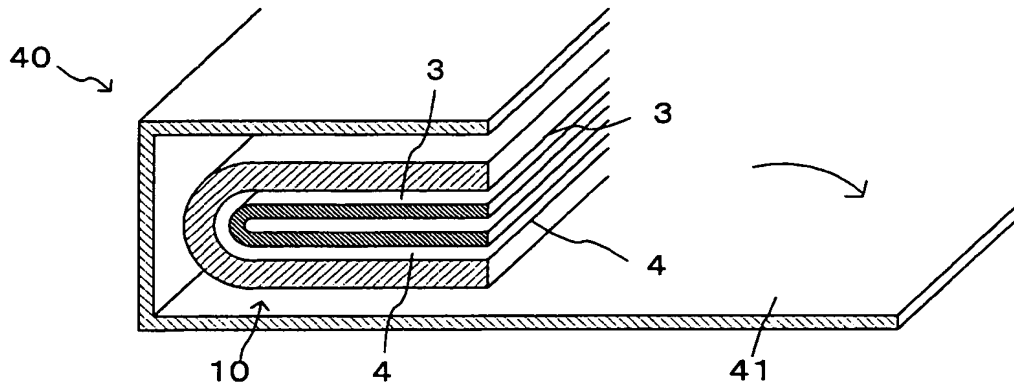
【図 13】



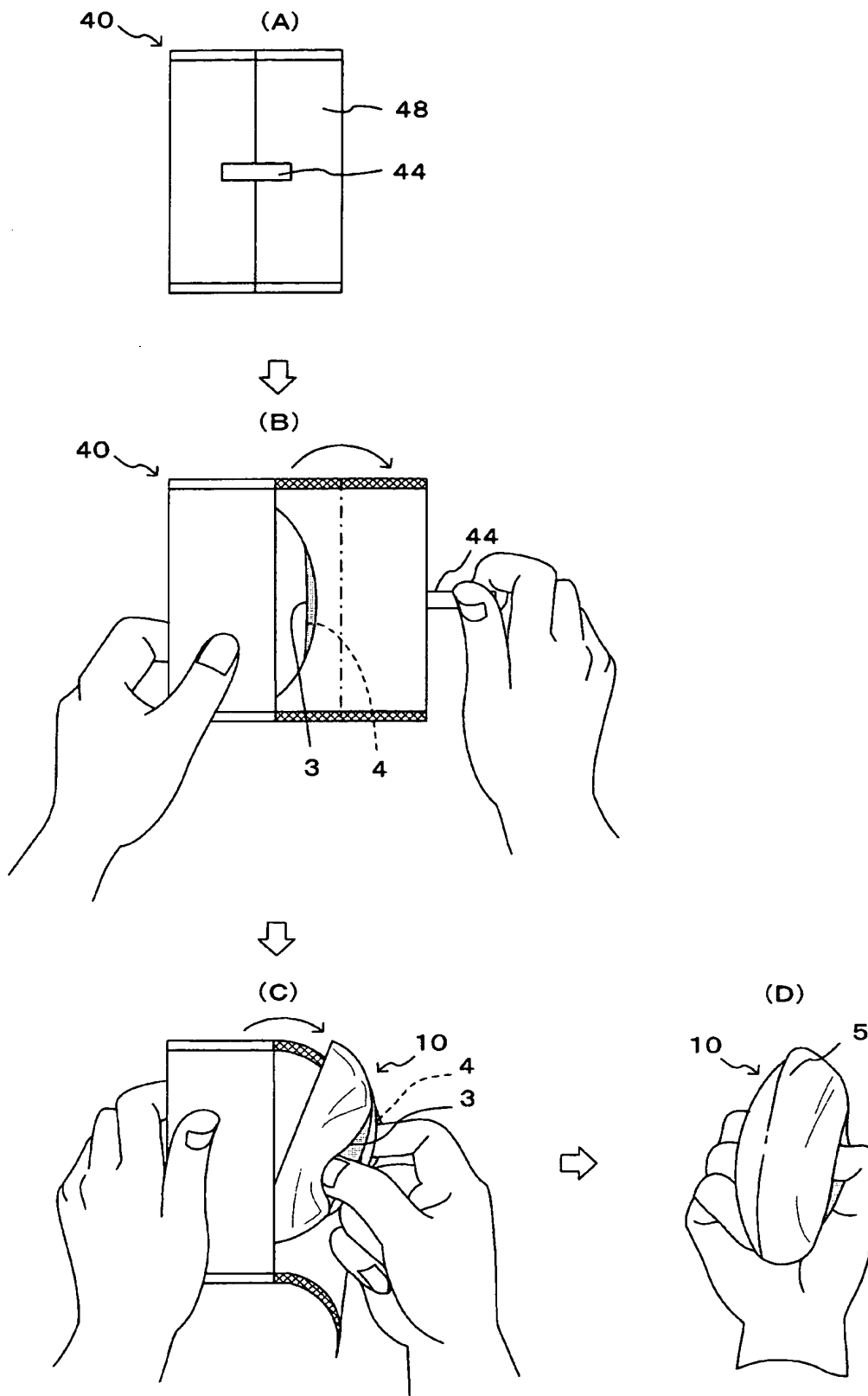
【図 14】



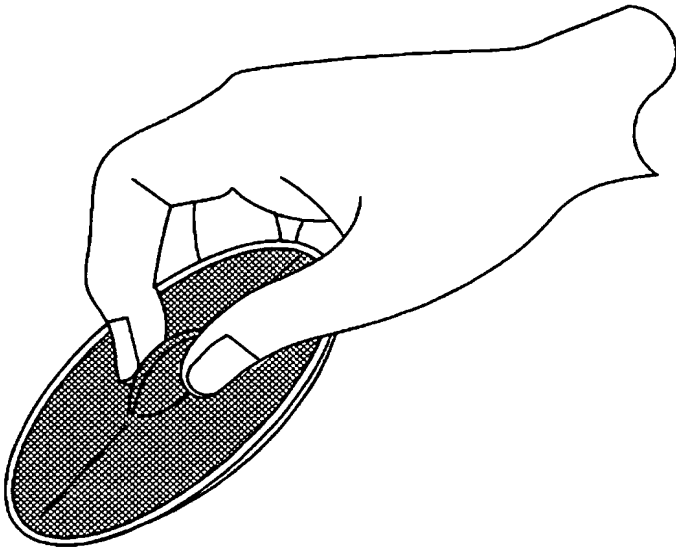
【図 15】



【図 16】



【図 17】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 女性の陰唇内に密着した装着を容易に行うことが可能な構造の陰唇間パッドを提供する。

【解決手段】 陰唇間パッド 1 の反身体側に、両側部に一对の指先挿入口 3、4 を形成するようにシート体 2 を取り付け、この指先挿入口 3、4 に 2 本の指を挿入し、この 2 本の指でシート体 2 を摘まむようにすることにより、陰唇間パッド 1 を縦軸中心線に沿ってほぼ沿い山折り状に折り曲げさせ、身体側面に隆起領域 5 が形成されるようにし、この形態を維持したまま陰唇 9 への装着を行なうことができるようにする。

【選択図】 図 2

特願 2001-321485

出願人履歴情報

識別番号

[000115108]

1. 変更年月日

1990年 8月24日

[変更理由]

新規登録

住 所

愛媛県川之江市金生町下分182番地

氏 名

ユニ・チャーム株式会社

2. 変更年月日

2004年 4月 1日

[変更理由]

住所変更

住 所

愛媛県四国中央市金生町下分182番地

氏 名

ユニ・チャーム株式会社